

# カガヤキ

暫定的補足表題「ウオランタス」  
ラテン語でボランティアの意

No.66(2022.6.1刊行)、広報委員会編集  
茨城県立図書館発行  
禁複写転載©広報委員会

## 曹洞宗雲水の国内外巡礼 2 総論

巡礼者と遍路者とボランティアの共通点

宗教研究者(曹洞宗雲水)  
桜井 淳

はじめに

世界の宗教分布の分析をしてみると、世界宗教のキリスト教(Christianity)を除外すれば、非常に大きな偏在性が存在することが分かる。

民族宗教であるユダヤ教(Judaism)が、イスラエルに局在化しているのは、当然なことであるが、世界宗教のイスラーム(Islam)は、中東諸国、パキスタン、東南アジア(インドネシアとフィリピン南部地域)に遍在化している。

世界宗教のヒンドゥー教(Hinduism)は、インドを中心とし、その周辺国(ネパール、カンボジア、ベトナム、シンガポー

ル、タイ)に及び、インドからの距離が離れるにつれ、影響力は、弱まっていく。

世界宗教の仏教(Buddhism)は、アジア全域に及ぶものの、いまでも大きな影響力を維持しているのは、チベット自治区、日本、タイ、ミャンマー、ラオスである。

私は、アジア各国での巡礼(Pilgrim、遍路の英語名も同じ)をとおり、世界宗教の混在状況と社会的機能を調査・考察してみた。

## 各国の宗教

以下、私の巡礼の時系列に沿って記す。ただし、問題意識が希薄であった当時、中国・韓国・台湾についての記憶や写真は、残念なことに、まったくない。

### 1 ネパール



世界遺産(旧王宮)の一部のヒンドゥー教寺院(カトマンドゥ)

ネパールは、地理的に、インドの北、チベット自治区の南に位置しているため、インドのヒンドゥー教とチベットの仏教の影響を強く受けており、国全体では、前者の信者が 80%、後者の信者が 20%弱に達している。首都のカトマンドゥでは、ヒンド



仏教スヤンブ寺院(カトマンズ、カトマンズ市が一望できる高台にある、上の三角形の部分がお釈迦様の頭を象徴、各旗には、一枚一枚、チベット語経文、人物は桜井)

ウー教の信者が圧倒的に多いものの、スヤンブ寺院のように、大きく立派な仏教寺院も存在する。ネパールの山岳部では、仏教信者が圧倒的に多い。

ネパールの山岳部には、車道やロープウェイがなく、業務用や観光用のヘリポートも存在するものの、数が少なく、一般的な移動手段は、徒歩のみであり、どこまでも続くエベレスト街道を歩くことになる。街道沿いには、さまざまな仏教施設や仏教寺院が設置されている。それらの施設に巡礼訪問した。



マニー石(必ず時計回りに通過する規則、大きな自然岩石の利用、このような光景はいたるところにある)



山岳仏教寺院(テンボチェ)



山岳仏教寺院(ターメ)



仏教のチベット語経文を記したマニー石(手前右)とマニー回転体(赤色の円筒形)このような光景はいたるところにある)



チャイナタウン幹線道路沿いにある佛牙寺龍華院(唐建築様式、新築数年)

## 2 シンガポール(多国籍国家、多宗教)

今回は、宿泊ホテルに、比較的近い、チャイナタウンにある三種(仏教、イスラーム、ヒンドゥー教)の寺院を訪問した。シンガポールにある主な寺院は以下のとおりである。

- ・ 龍山寺
- ・ 卍千燈寺院
- ・ スリ・スリニヴァサ・ヘルマル寺院・
- ・ セント・ジェームス教会
- ・ セント・ジョージ教会
- ・ スリ・ヴィラマカリ・アマン寺院
- ・ クァン・イン寺院
- ・ セント・ジョセフ教会
- ・ クット・シェパード教会
- ・ アルメニアン教会
- ・ セント・アンドリュース教会
- ・ スリ・タンダユタバニ寺院
- ・ 佛牙寺龍華院(調査)
- ・ イスラーム教会(調査)
- ・ スリ・マニアマン寺院(調査)
- ・ ティアン福建寺院



チャイナタウン幹線道路沿いにあるイスラーム寺院

シンガポールは、多国籍国家であり、人種も宗教も、多様性に富んでいる。宗教は、仏教、イスラーム、ヒンドゥー教が混在しており、特に、ヒンドゥー教の影響が残っている。シンガポール政府は、国民に対し、多くのルールと高い倫理を課しており、違反者には、容赦なく罰金を科している。政府は、国外から資本と人材を集めるため、社会対策として、法人税や住民税などの低減化など、税制優遇策を策定した。その結果、経済的文化的に、世界のトップクラスに躍り出た。



チャイナタウン幹線道路沿いにあるイスラーム寺院



道教寺院(手前は蓮のモニュメント、ホンコン)



チャイナタウン幹線道路沿いにあるスリ・マリヤマン寺院(ヒンドゥー教)



高層アパートに囲まれた道教寺院(ホンコン)

### 3 ホンコン(旧中国特別区)

中国には、立派な仏教寺院も存在するものの、それだけではなく、不覚にも、ホンコンで初めて宗教の他の側面を見ることができた。それは、仏教のようで仏教でなく、仏教+儒教=道教であり、やや、違和感を覚える。ホンコンを訪問した頃は、まだ、出家しておらず、専門的な宗教知識は、まったくなく、頭の中が混線した。

### 4 タイ

タイは、「微笑みの国」とか「仏教の国」と呼ばれており、歴史的に、日本と関係の深い国である。

仏教寺院ばかりのように見えるが、ヒンドゥー教寺院も存在しており、中には、ワット・アルン(ワットは寺院の意、カンボジアのアンコールワットなど)のように、昔、ヒンドゥー教寺院であった寺院が、仏教寺院に様変わりしており、建築様式を見れば、判別でき、特徴は、壁面に数多く設けられている人間や動物などの像である。

世界で、仏教が社会的に大きな位置を占めている国は、日本とタイである。あらゆる意味で、日本とタイの仏教は、対極をなしている。日本の寺院は、社会に溶け込ん



ワット・アルン1(暁の寺院、高さ 79m、10年に一度の修理中、バンコク)



ワット・ポー1(バンコク)



ワット・アルン2



ワット・ポー2(桜井の手に曹洞宗の数珠)



ワット・アルン3(桜井の手に曹洞宗の数珠)



キングパワーコンプレックス内にある宗教施設

であり、違和感がないが、タイの寺院は、社会から浮き出るように派手な色彩の寺院である。タイの仏教は、僧侶と寺院の社会的位置づけに特典があり、寺院は、地域社会の中心となり、僧侶には、国内移動手段(バス、電車、タクシー、飛行機)において、優先席で、無料である。



中心街にあるビラホテル内にある宗教施設

## 編集後記

考察－「比較宗教学」に基づき－

私は、「はじめに」において、巡礼と遍路の英語名が同じであることを記したが、あえてそう記したのは、特別な意味を込めたことである。私の「比較宗教学」「哲学」からすれば、巡礼=遍路=ボランティアなる等式が成立する。

遍路で有名なのは、四国八十八寺院巡りであり、特徴は、相対的に高齢者が多い、社会的不祥事を引き起こした政治家や事業者なども多いことである。世の中では、遍路とは、「祈願成就」とされているが、実はそうではなく、すべての遍路者に共通していることは、人生における負債をなくすか、可能な限り、ゼロに近づけ、できることならば、わずかにプラスにするための徳(人間の最高の倫理や価値など)を積むための行為である。

巡礼とは、世の中では、他者を救済することが目的のように解釈されているが、そのことだけではなく、さらに、そのことをとおし、己を救済すること、すなわち、徳を積む行為のことである。

本人が意識しているか否かに関係なく、ボランティアも、結果として、遍路や巡礼と同じく、徳を積むための行為である。県立図書館ボランティアのうち60歳以上の高齢者の割合が64%、50歳以上の割合が83%(通信紙 No.52 参照)にも達しているのは、遍路者の年齢構成別の割合と一致しており、偶然の一致ではなく、行為の共通性からすれば、必然性のあることである。本稿のオリジナリティは巡礼者=遍路者=ボランティアの等式の証明したことである。

新緑の季節は、一年のうちで、最も気持ちの良い時期です(2022.4.30 執筆)。世の中では、4月1日の人事異動に伴い、歓迎会や送別会が行われ、送別した人達の新しい職場での活躍の姿を頭に描き、今後の仕事やもっと大きく言えば、これからの人生への期待を思い描いている時期です。

大槻晋吾さんは、県立図書館へ異動、普及課の課員として二年間、普及課の課長として四年間、計六年間勤務し、その間、ボランティア担当の事務局を務め、ボランティアと接する機会が多くありました。大変大きな貢献でした。

大槻さんは、異動元では、体育教師であったため、体格が良く、健康で、姿勢が良く、笑顔が素晴らしく、大変気持ちの良い存在であり、常に、周囲の雰囲気明るくしてくれる魔術師のような術を持ち合わせた稀な人でした。私も見習い、かくありたいと願いました。

私は、県立図書館ボランティアの通信紙の担当者となり、通信紙 No.25 から最近の No.65 まで編集しましたが、担当した初めの頃、五つの号は、やむなく、欠番にせざるをえませんでした。その原因は、編集責任者の私と発行責任者の館長の考え方の相違にありました。私は、館長室で、普及課課長と同課課員の大槻さんの立ち合いの下で、館長と話し合いましたが、私の言葉があまりにもきつかったため、大槻さんは、動揺していました。詳細については、記せませんが、初期の頃、大槻さんは、大変、重要な役割を担いました。多々深謝。

桜井 淳